

上島町消防だより

中西副士長 航空隊へ

愛媛県消防防災航空隊派遣

平成20年4月1日から中西雅紀消防副士長が、愛媛県消防防災航空隊に派遣されました。

これから中西副士長は3年間上島町消防本部を離れ、愛媛県の航空隊員として訓練や災害現場等へ出動することになります。



消防副士長 中西 雅紀

(中西消防副士長の抱負)

私が消防職員に採用され、最初の教育課程である初任科教育訓練で入校(平成8年4月1日)する頃、愛媛県消防防災航空隊が発足し(平成8年4月1日発足)活動を開始しましたが、当時はまだ航空隊がどのようなものなのかよく理解できていない状態でした。

初任科教育訓練修了後、所属に就き航空隊の話や合同訓練を重ねて行くうちにいつしか航空

隊への強い憧れを抱くようになり、いつの日か入隊できるような日々を研修訓練を積み重ねて来ました。そして、ついに憧れの航空隊への派遣が決まり夢のような思いでしたが、現実には想像以上に厳しいものでした。

2月、3月に約4週間実施された事前訓練では、防災ヘリコプターに関する関係規程や基礎知識、装備品、各資機材の取り扱い要領、また、実機を使用しての飛行訓練で降下及び引き上げ訓練や、散水訓練、救助現場想定訓練等、様々な研修訓練を受けて基礎的な知識、技術を学びました。ヘリコプターによる活動では、地上で行う今までの活動とは大きく異なる部分も多く、戸惑いの連続でしたが、事前訓練において航空隊の基礎をしっかりと学び、4月より愛媛県消防防災航空隊において任務に就き、航空隊で多くの知識・技術を身につけ、更なる研修訓練を重ね、現任隊員である先輩方と共に災害現場において迅速・安全・確実な活動に努め、地域住民の皆様方に信頼して頂ける航空隊員になりたいと思います。

こんな時どうするの!?

宿泊施設での火災時の避難方法

連休を控え、観光シーズンとなり旅行へ行かれる方も少なくないと思います。万が一の時のために、宿泊先等でよく目にする誘導灯についての知識を、旅行鞆と一緒に持って行かれてはどうでしょうか。

宿泊先で火災に巻き込まれた場合、不慣れた場所のためにうろたえているうちに煙にまかれ、逃げきれず命を落とす危険があります。

【避難時のポイント】

- ① 混乱を避けるため、【おはし】
【おさない】・【はしらない】・【しゃべらない】を実行する。
- ② 煙を吸わないように姿勢を低くして、出来ればタオル・ハンカチなどで口・鼻を覆い避難する。
- ③ 誘導灯に従って避難する。

誘導灯について、いくつか種類があるのですが、目にする機会の多い2種類について、どういった意味があるのかご存じでしょうか。



誘導灯知っていますか?

避難口誘導灯と通路誘導灯の違いについて

見たことありますか。緑と白に光る誘導灯。私たちの生活で何気なく見かける誘導灯は、初めて入った建物の中で真っ暗になったときや、煙が充満したときなど、私たちの命を守る大切な灯りです。

避難口誘導灯や通路誘導灯は、ともに緑色に光る表示灯になっていますが、なぜ緑色なのか。これは色相環において赤の反対側にある色で、火災の時によく目立ち、注意を引くと同時に落ち着かせる効果を持っています。

避難口誘導灯は緑色の地に白文字で、階段などから安全に避難できる場所や、屋外に出る扉の上部に設けられています。

通路誘導灯は白地に緑文字という違いがあります。通路誘導灯はそのような避難口につながる廊下、通路に設けられています。



通路誘導灯



避難口誘導灯

平成20年出動件数

	火災	救急
平成20年(3月)	1	28
平成19年(3月)	1	45
昨 年 比	0	-17
20 年 累 計	2	86

平成20年3月31日現在

火災と救急は119番

※携帯電話からでもつながりますが、電波の状況によって、他の消防本部につながる場合もあります。

消防本部 77-4118(代)



農業講座

しまなみ農業だより スイートコーンの栽培ポイント

スイートコーンはビタミン、ミネラル、食物繊維をたくさん含んだ高エネルギー野菜のひとつです。おいしく食べるには、適期の収穫と収穫直後から甘味が低下するので朝獲りしたら早く食べることで。また、暖地ではアワノメイガという茎や実に入食する害虫の被害が発生しやすく、無農薬栽培では安定した収穫が得られない野菜です。今回はスイートコーンの栽培について解説します。

■栽培作型

地温が15度を越えないと、発芽不良などの原因となるため、十分に暖かくなってから種をまき始めましょう。

表 スイートコーンの作型

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	主要品種
平坦地		○	○	●	●	●					早生種 中生種
		○種まき		●収穫							

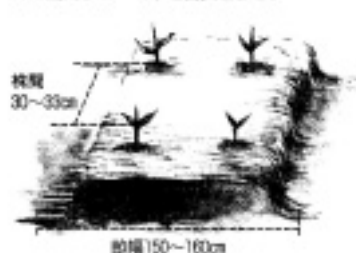
■栽植本数と施肥管理

密植すぎると、穂が小さく、先づまりが悪くなります。適切な栽植密度は10m²（約3m×3m）で40本です。畝幅150cmに30cm間隔で2条植えが目安です（図参照）。元肥は、種まきの2週間前に10m²あたり配合肥料250gを施用します。堆肥を土にすきこんでくと根張りが良くなります。

■種まき・間引き

種の早まきは、発芽不良を招くので、4月下旬から直接種をまきます。欠株を防ぐため、種は1穴に3粒、2～3cm程度の深さに埋めると7日程で発芽します。雑草防止のため畝に黒ポリビニールでマルチをして、種をまくところだけ5cm程度、切抜いて利用するのも良いでしょう。発芽後は本葉が3～4枚になったら、最も生育の良い株を1本残して他は土際からハサミで切り取ります。

10m²当たり40～42本を目安とする。



■追肥・かん水

大きな穂を収穫するためには、勢いのある株を作ることが大切です。本葉が6～8枚の頃と雄穂が見え始めた頃の2回、1株あたり半握りの肥料を株の周りに施します。同時に土寄せを行い株が倒れるのを防ぎます。スイートコーンが必要とする水の量は、1回目の追肥の頃から増加してきます。特に、開花期（穂の先から絹糸（白い糸状）が出る）以降の乾燥は穂の肥大不足や穂先の不稔（実が入らない）、品質の低下を招きますので、適度のかん水による水分保持が重要です。株元から分げつ（小株の発生）が見られるが、そのまま放置する。また、1株当たりの雌穂は上位2本を残し、他は早めに除去する（図参照）。

■収穫

雌花の開花（絹糸（白い糸状））から20～25日後に絹糸が褐色に変色してから、試しむきをして先端の粒が黄色くふくらんでいれば収穫できます。収穫が早すぎると甘味が少なく、遅れると粒のしなびや糖度が低下します。

■病害虫防除

アワノメイガの防除は、雄穂が出始める前後から、スミチオン乳剤1000倍等を1週間おきに2回散布します。特に雄穂に食入すると受粉能力が低下し、雌穂への食入は粒の食害による減収を招きます。その他では、カラスによる被害に注意をする。

